

令和7度 学校評価アンケート結果についての関係分掌による分析

担当	分野	No.	質問項目	結果と分析等
教務	学習指導	1	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている	生徒の肯定的評価は94.1%と昨年度(R6:89.4%)より高いものとなった。全体の約9割以上の数値を示していることは、教員が生徒の学力を的確に把握し、積極的に「主体的対話的な深い学び」を導入していることで、授業理解を図ることができているからと考える。 一方で、保護者の評価は80.9%と昨年度(R6:85.0%)よりも下回った。この内訳として、1年生:77.6%、2年生:80.2%、3年生:85.1%と、学年間に大きな差がみられた。今年度、前期期末追指導科目が最も多かった1年生の保護者が、生徒の授業理解の低さを懸念したものと考える。 教職員の評価は94.0%と、昨年度(R6:89.3%)より上回り、授業公開研究週間をはじめ、それぞれ授業研鑽に努めている成果を自己評価できていると考える。
生徒	生徒指導	2	挨拶やマナーなどの基本的習慣の確立に関する指導が行われている	挨拶・マナー等の生活習慣指導は生徒・教職員で肯定的な回答が多数であり、保護者も概ね肯定的である。指導は認識されているが、基本的な生活習慣の確立に学級間で意識の差が生まれていることが課題である。
進路	進路指導	3	進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている	生徒全体評価はR6:92.2%→R7 94.5%、保護者全体評価はR6:80.8%→R7 82.0%と上昇した。特に3年生がR6:89.8%→R7 98.3%、3年生保護者がR6:86.5%→R7 90.4%と高く、進路決定の支援ができたと思われる。 2年生の評価はR6:95.1%→R7 93.8%、保護者評価はR6:83.9%→R7 78.6%と低下したが、年次で追ってみると、生徒はR6:84.7%(1年次)→R7 93.8%(2年次)、保護者評価はR6 72.2%(1年次)→R7 78.6%(2年次)と上昇している。 結果から、各学年の行事の効果が高いと思われるので、今年度ベースで来年度も実施したい。また、「柴高通信」で進路行事を発信することも生徒及び保護者への周知として効果が高いと思われるので、来年度から検討していきたい。
保厚相談	教育相談	4	生徒にとって教員やカウンセラーが必要なときに相談に応じてくれる体制は出来ている	肯定的回答が増加しており、今後も現体制を維持していきたい。来年度はカウンセリングの予約のしやすさ及び担任による対象生徒の把握のしやすさを追求していく。
生徒	部活動	5	学校として部活動は活発に行われている	学校として部活動は活発との認識が生徒・保護者・教職員で概ね一致している。大会成績だけでなく、活動頻度や大会参加などの取り組みも評価に直結している。
生徒	生徒会活動	6	学校として生徒会活動は活発に行われている	生徒会活動は活発と認識され、自治的な行動機会が機能している。自治経験が自己有用感や生活面の自律に好影響を与えている。
生徒・総務	学校行事	7	自分(お子さん・生徒)にとって有意義な学校行事がある(学校行事)	学校行事は有意義との評価が生徒・保護者・教職員で多数派を占めている。達成感・関係づくり・規範形成の場として機能している。
総務・教務	特色ある学校作り	8	学校として地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。	評価は、生徒86.1%(R6:82.5%)、保護者75.2%(R6:70.7%)、教職員82.0%(R6:64.3%)と、いずれも、昨年度から向上した。特に、教職員は18%も上がっており、2年生の総合探究によるインターンシップや、3年生の公民総合Aの授業で行った「議員懇談会」等の実施が、地域との結びつきを評価したと推察する。 今後の課題としては、柴田町の伝統を反映した学校づくりとして、地域連携事業をより多く設けることや、本校の取り組みをさらに周知することが大きな課題と考える。また、学校運営協議会(コミュニティースクール)を設置し、地域の意向を定期的にくみ取る施策も必要と考える。

防災	防災	9	災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている	生徒については、90%以上と周知されている。保護者には70.2%と低い値である。これは、小・中学校と地域内での防災であるため保護者が理解していると考えられる。高校は生徒の居住が広範囲にわたるため実感がつかめていないためと考えられる。今後は、ホームページなどで注意深く意識付けできるよう取り組んでいく。
図書情報	開かれた学校	10	保護者に対して学校HPや各種通信などで、学校の情報も適切に伝えられている	生徒93.7%(R6:91.1%)、教職員100.0%(R6:92.9%)と、生徒・教職員において肯定的評価は昨年度より高まり、高い水準を維持している。一方、保護者は86.5%(R6:89.1%)と、依然として高評価ではあるものの、昨年度よりやや低下する結果となった。 今年度は、学校行事や大会後のホームページ更新、各種通信による情報発信を継続して行ってきたことが、生徒・教職員の高評価につながったと考えられる。一方で、保護者評価の低下については、今年度から保護者連絡をClassiからスタディサプリへ変更したことにより、設定や利用方法に戸惑いを感じた保護者が一定数いたことも一因と考えられる。 今後は、学校ホームページの定期的な更新を引き続き徹底するとともに、スタディサプリの設定や活用方法について、保護者への丁寧なサポートを行い、より分かりやすい情報発信に努めていきたい。
事務	施設設備	11	学校の施設・設備は整備されている	生徒からの肯定的な回答は、79.7%であるが、保護者は67.7%、教職員は61%と生徒と比較して評価は低い。校舎・体育館は築40年を経過し、施設設備の老朽化が見られるが、安全面を最優先に考慮した維持管理及び整備に努めるとともに、不備・不便な部分は順次改善を図りたい。安全点検での軽微な不備等については、その都度技師や業者により対応している。 高額な施設設備の更新・修繕については、引き続き施設整備計画に計上し、県に予算要求して行く。
生徒	いじめ対策	12	【生徒】学校として日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる 【保護者】学校としていじめの問題に対する取り組み方針が保護者と共有されている	生徒は早期発見への取り組みを認識している。保護者は方針共有に概ね肯定的だが、更なる明確化を望んでいる。相談経路整備と初期対応標準化は進んでいるが、保護者には一目で分かる資料等を通じた情報共有が安心感に直結すると考える。
委員会	総合満足度	13	学校生活は充実している	生徒の総合満足度は前年度より上昇しており(R6:96.1%→R7:97.2%)、非常に高い水準を維持している。自由記述欄では、施設面や防寒対策など改善要望は見られるものの、特に3年生からは学校生活全般への高い満足感や感謝の声が多く、日常の学習や部活動、行事が生徒の充実感につながっていると考えられる。 一方、保護者の評価は前年度より低下している(R6:93.2%→R7:90.2%)。自由記述では、行事や連絡事項の説明不足、情報提供の時期や分かりやすさへの要望が多く見られ、学校生活自体は肯定的に捉えつつも、学校からの発信や配慮の面で課題を感じている可能性がある。 教職員の評価は引き続き高く、生徒の学校生活は概ね充実していると認識されている。総じて、生徒の満足度は高いが、その実感を保護者と共有していく取組が今後の課題である。
保厚相談	保健厚生	14	【生徒のみ】日常の清掃活動をはじめとして環境の整備は適切に行われている	例年通り、肯定的回答が多かったが、清掃への取り組み姿勢に温度差が見られるため、監督の先生方による一層の声掛けをお願いしたい。
保厚相談		15	健康診断や保健講話・保健だよりにより生徒の健康管理は適切に行われている	多くの生徒が現状の体制に満足していることが窺われる。現状を維持しつつ、細部の改善を図っていく。
総務	総務	16	(保護者のみ) PTA会員相互の連携が図られており各種行事・研修がスムーズに運営されている	保護者の評価が82.3%と昨年度より上がっており、概ね理解されていると考えられる。役員は各行事、特にPTA主催の花火大会など保護者に認知されてきたと考えられる。各行事・研修は昨年度より積極的、かつスムーズに運営されたことも要因の一つと思われる。ただし、PTA会員全体となると共働きの家庭が多く平日の活動が多いため、平日の活動が難しくなっている。
図書情報	図書情報	17	学習、読書及び情報収集の場として図書室は適切に運営されている	肯定的な回答は、生徒94.7%(R6:84.4%)、保護者87.1%(R6:84.2%)であった。生徒、保護者ともに昨年度より肯定的評価が高くなっており、図書室が学習活動や読書、情報収集の場として適切に機能していることがうかがえる。また、教職員においても93.9%(R6:100%)と高い評価を維持している。一方で、さらなる活用に向けては、授業の場としての計画的な利用機会を増やすことや、授業に出られない生徒が落ち着いて過ごせる居場所としての機能を明確にするなど、学習支援と生徒の安心感の両面から図書室の役割を再整理していくことが課題と考えられる。

進路	進路指導	18	模試や課外講習などで進路達成に向けた実力養成は適切に行なわれている	生徒全体評価はR6:92.5%→R7 95.0%と上昇した。1年生R6:92.7%→R7 92.0%、2年生R6:95.1%→R7 95.4%、3年生R6:89.8%→R7 98.3%であった。保護者の全体評価はR6:82.3%→R7 79.8%と低下した。1年生保護者R6:79.8%→R7 78.4%、2年生保護者R6:79.3%→R7 73.8%、3年生保護者R6:87.6%→R7 87.7%であった。これは、生徒は理解しているが、保護者には周知されていない結果だと思われる。受験及び受講人数は少数ではあるが、生徒には啓蒙しつつ、保護者には周知を図りながら今年度同内容を継続していきたい。
図書情報	図書情報	19	芸術鑑賞会など情操を養うための行事が適切に行われている	肯定的な回答は、生徒97.2%(R6:96.1%)、保護者90.2%(R6:93.2%)、教職員100%(R6:100%)であった。生徒および教職員では前年度と同様に非常に高い評価を維持しており、芸術鑑賞会等の行事が情操を養う取組として定着していることがうかがえる。一方、保護者の評価は高水準を保ちつつもやや低下していることから、行事のねらいや教育的意義について、引き続き丁寧な情報発信を行うことが課題と考えられる。
教務	教育課程	20	学校としてスクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている	評価は、生徒95.1%(R6:84.4%)、保護者87.1%(R6:84.2%)、教職員94.0%(R6:100%)と高く、生徒の実態に合った教育課程が編成されているものとする。今後も、生徒、保護者にスクールポリシーや学校の教育目標をより広く深く浸透させ、教育課程への理解度を高めていきたい。現状の評価に甘んじることなく、一人ひとりの進路実現にも即した、定期的な教育課程の見直し(カリキュラムマネジメント)を図っていきたい。